新たなモニタリング態勢に関する金融機関による評価の傾向

2018年3月　プロティビティLLC

- 調査対象の各金融機関は、金融庁による新たなモニタリングに対し、総じて肯定的に評価している。他方で、「モニタリング理念の具体化、実務への落し込み不足」「フィードバックの質の不十分さ」「仮説ありきの対話姿勢」「オフサイトモニタリング対応の負担」「オフサイトモニタリング等業務の属人化」等の課題が挙げられた。
- 各金融機関はこれらの課題を、金融庁内のモニタリング態勢見直しにおける過渡的な課題であると認識しており、金融庁における早急な対応が、今後のモニタリングにおける各金融機関の納得性向上のポイントとなる。

金融庁

① 評価の傾向「モニタリング理念の具体化、実務への落し込み不足」

評価) 理念(特に定義)が判りづらい、又は不明確。具体的なモニタリングが手探りの状態

原因) 理念の具体化が十分にされていない。モニタリング実務への落し込みが担当官に依存

対応) 理念等の定義の明確化、モニタリングの原則的な手法の定義

⑤ 評価の傾向「モニタリング等業務の属人化」

評価) 各テーマの検証項目の設定等が属人的に実施、場当たり的

原因) モニタリングに関する組織横断的な情報共有、レビュー等の仕組が不十分

対応) 情報共有態勢、レビュー態勢の充実化

④ 評価の傾向「オフサイトモニタリング対応の負担」

評価) オフサイトモニタリングでの提出資料が多く、目的に照らして負担が大きい

原因) 徴求目的が一部不明確、絶対的な徴求資料の量の多さ、徴求資料等の有効活用が出来ていない

対応) 徴求資料の整理、オフサイトモニタリング資料等の庁内共有

メガバンク等・証券会社

【モニタリング上の特徴】
企画(渉外)部門が窓口となり、各部署と対応

対応部署は細分化、比較的高い専門性を有し、**相応の情報量、分析能力等**を有する

モニタリング実施状況

- EiCや横串チームを活用した恒常的なモニタリング(業界共通のテーマを横断的に適用)
- コミュニケーションの(絶対的な)頻度は高い

② 評価の傾向「フィードバックの質の不十分さ」

評価) 金融庁へのインプットがモニタリングの中心となりフィードバックが少ない
水平レビュー等画一的なアウトプットが多い

原因) 情報の非対称性故、上位行からのインプットを得て、それを下位行に展開するモニタリングとなっている

対応) 特定テーマについてのあるべき姿の提示、専門人材の育成

地域金融機関

【モニタリング上の特徴】
企画部門が一次的な窓口となった後、各部署が直接対応することが多い
メガバンク等対比で、**情報量や分析力に劣る**傾向あり

モニタリング実施状況

- テーマ毎に対象行をプロファイリングして実施
- コミュニケーションの(絶対的な)頻度は少ない

③ 評価の傾向「仮説ありきの対話姿勢」

評価) 対話路線といいつつも、金融庁側の仮説を押し付ける傾向あり

原因) 対話重視の理念が徹底されず(形式的な対話路線に終始)

対応) 対話重視の理念の浸透、徹底

© 2018 Protiviti Inc. An Equal Opportunity Employer M/F/Disability/Veterans. Protiviti is not licensed or registered as a public accounting firm and does not issue opinions on financial statements or offer attestation services. All registered trademarks are the property of their respective owners.

protiviti